

1. 幼稚園の教育目標

子どもたちは、無限の未知なる可能性を秘めており、その可能性は幼児期の過ごし方で大きく左右される。本園は「生きる力」の基礎を育むことを大目標としている。生きる力の根源はやる気である。四季折々の子どもたちの体験活動を重視し、感動体験から湧き出るやる気（意欲）を発露させる保育を進める。

2. 平成30年度の重点

- ・ いきいきと活動し心豊かな子どもを育てる。
- ☆ 考える子ども…………… 工夫し創り出して遊ぶ
- ☆ 元気な子ども…………… 身体を存分に使って遊ぶ
- ☆ 感じる子ども…………… 自然に親しんで遊ぶ
- ☆ 仲よくする子ども…………… 思いやりをもってきまりを守って遊ぶ

3 評価項目の達成及び取組状況

評 価 項 目	結 果	理 由
(1) 園の教育理念 教育方針	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本園の目指す方向を再確認しながら、教育・保育に努めた。 ・ 社会や地域の要請、園・子どもの実態に応じ教育理念・教育方針を設定し全教職員で共通理解する機会を持つことに努めた。 ・ 全教職員で全園児を育てることに力を注いだ。
(2) 教育課程・指導	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年の状況や課題を確認し、指導計画の作成に努め、子どもの実態に応じた保育が展開できるように努めた。それぞれの活動後の振り返りを次に生かせるよう取り組むことができた。 ・ 子どもの思いを大切にするとともに、小さな伸びや成長を見逃さず認めるように心掛け、自己肯定感を培うことに努めた。 ・ 運動会・作品展・発表会の三大大行事の充実と園外保育や四季折々の行事のねらいを常に明確にしながら取り組むことができた。発表会の音楽部門の在り方を検討する必要がある。 ・ 絵画指導では、学年の一斉指導を採り入れるなど、個の思いを重視する活動が展開できた。
(3) 保健管理	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園医による定期的な検診と月々の発育測定の実施及び日常の健康観察や疾病予防のための取り組み等、園児の健康管理に十分配慮することに努めた。 ・ 健康の大切さを子どもたちが理解しやすいように、全体・個別指導を織り交ぜ、年間を通してうがいと手洗いの徹底を図った。 ・ 各保育室に手洗い消毒器を新たに設置し、手洗いの充実に力を注いだ。 ・ 伝染性の疾患を極力減少できるように、園医・保護者と連携を取り、事前の防衛対策に力を注いだ。
(4) 安全管理	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難訓練や防犯訓練を通して、子どもの安全に対する意識の高揚を図った。また、教職員一人一人が子どもを守る意識と行動を高めることに努めた。訓練のための訓練とならないよう常に心掛けた。 ・ 施設・設備の定期的な安全点検と保育室等の日常の安全点検の徹底に努め ・ 防犯カメラ・インターホン対応・入園証の着用化等、外部侵入者対策を保護者と共に実施した。 ・ 降園時に、保護者が確実に子どもを受け取れるよう、安全の確認を徹底した。 ・ 給食業者や保護者と連携を取りながらアレルギー対応に進んで

		取り組むことができた。
(5) 特別支援教育	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> 園内で、こども一人ひとりを理解する研修会を深め、一人の子どもを多面的に理解できるように努めた。 配慮を要する個々の子どもの理解が進むよう、箕面市教委発達相談と連携を密にするとともに、保護者・教職員間で必要な情報提供を行い、連携・協力を図ることに努めた。 個別の支援計画・指導計画の作成に力を注ぎ、活用を図った。 小学校への滑らかな進級となるよう、箕面市教育委員会・家庭との連携を密にしながら要配慮児童に対応することができた。 外部機関との連携の強化や研修の充実にも力を注いだ。
(6) 組織運営	5. 0	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員で全園児を育てるという意識が浸透し、一人一人の子どもに応じた指導・支援・対応ができるようになってきている。 フリーの教員を含めた学年協働による指導に努めた。学年内での打ち合わせ、隣接学年との協議の充実に加えて、園務分掌や主任の役割が適切に機能し、円滑な幼稚園運営が展開できた。 教育と管理部門の連携の合理性にも力を注いだ。
(7) 研修	4. 0	<ul style="list-style-type: none"> 子ども理解・指導技術・指導法など、園内では日々、学年を越え相互に高め合うことができた。 外部講師による実技研修を定期的実施し、指導に活かすことができた。 初任者研修・支援教育研修以外の外部研修へも積極的な参加を促し、園内での伝達講習に繋げた。 教材研究や教材準備の時間の確保に関して課題が残る。
(8) 情報提供	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の園だよりと毎週のミニだよりの発行で、園の方針や取り組み内容について保護者に積極的に情報を提供した。子どもの活動する姿ができるだけ見えるように努めた。 携帯メールを利用した保護者への連絡がほぼ確実にできるようになった。
(9) PTA との連携	5. 0	<ul style="list-style-type: none"> PTA 役員・委員を中心に、充実した PTA 活動が展開できるように努めた。役員の決め方にもかなり理解して頂けるようになった。 PTA の役員・委員が、幼稚園側の思いを全保護者に伝える役割を担うことも多かった。
(10) 子育て支援	5. 0	<ul style="list-style-type: none"> 満2歳児を対象にした、週2回の特別保育を年間計画のもとに実施。2コースとも常に定員一杯の状態を実施。 未就園児を対象に、月1回園を開放して種々の遊びを促したり、子育ての情報を提供したりした。
(11) 預かり保育	5. 0	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の要望を可能な限り受け入れ、毎日7時30分～18時30分まで実施。水曜日と長期休業日は特に参加者が多く、受け入れ態勢の見直しが迫られている。 預かり保育の中身を吟味し、子どもがより楽しく参加できるように心掛けた。異年齢児の交流の場として位置づけられている。
(12) 教育環境整備	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの安全と使いやすさの両面を常に意識しながら、施設設備の整備に心がけた。暑さ対策の遮光ネットの活用にも努めた。 西館園舎壁面の防水工事を行うとともに、各保育室の整備・美化に努めた。 大雨対策並びに子どものけが防止のために、園庭の全面改修を行い、園庭で活動できることが増えるよう努めた。 花壇・玄関前の植物栽培に力を注ぎ、四季折々の草花が鑑賞でき

		<p>るように努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは、菜園で育てたジャガイモやさつまいもの収穫を楽しむことができた。また、トマトやキュウリなどの野菜の育ち方を身近に観察することができた。
--	--	---

☆自己評価 (5:十分に達成 4:達成 3:おおむね達成 2:要努力 1:要一層努力)

4. 総合的な評価結果

- 本年度は、すべての活動の中で、子ども自らが遊びを工夫しながら創っていく姿を求め、「考える子」を育むことに重点を据えて取り組んだ結果、いききと活動する子どもの姿が増えた。「元気な子」「感じる子」「仲よくする子」についても望ましい方向に進むことができた。
- 「当たり前が当たり前ができるように」との方針の下、諸活動を展開した結果、幼稚園全体での話を聞く態度や衣服の着脱や身の回りの整理などの基本的な生活習慣が確実に育ってきている。
- 一人ひとりの子どもを複数の目で見ることや、一人ひとりの子どもの思いを多くの教員が聞き取ることが、子どもを大切にすることにつながり、発達段階に応じて自分の思いをみんなの前で出せる子どもが増えてきている。
- 大規模な園庭改修工事や保育室の防水工事などに合わせて、長期休業中の職員作業に力を注ぎ、子どもが気持ちよく活動できる環境づくりに取り組むことができた。
- 防災マニュアルの再検討とともに、地震を想定した避難訓練を重視し、万一の災害に備えた。また、警察官による防犯訓練や防犯カメラの設置等外部侵入対策を強化した。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的 な 取 り 組 み 方 法
教育課程・指導	<ul style="list-style-type: none"> 園内の研修を深め、一人ひとりの子どもの理解を深めることに力を注ぎ、子どもが自分の思いが出せるよう導いていく。また、自己肯定感の育成に努める。 教育課程及び指導計画を見直し、園児の実態に応じた保育を展開していくことに努める。また、運動会の暑さ対策・作品展のテーマの早期決定やコーナー遊びの精選・発表会の器楽演奏部分の独立化等、三大大行事のねらい及び進め方を再吟味し、保育内容のスリム化を図っていく。また、異年齢児との交流活動をより活性化していく必要がある。 幼稚園と地域との連携を深める保育のあり方について探りながら実践していく
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる自然災害を想定した防災計画を確立するとともに、子どもの命を守るための避難訓練を計画的に実施していく。災害に備えての水や食料の備蓄を検討する。 外部からの侵入者に対する防犯対策を強化する。また、関係各位との連携を強化する。
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園に関する様々な情報の提供・幼稚園公開の実施・園だよりやPTA情報などについてさらに充実していく。HPの積極的な活用を図っていく。

6. 学校関係者評価委員会の評価

全 体 の ま と め

- ・ 常に子どもを中心に据えた保育の展開を心掛けていることが認められます。従来から「やる気」を培う保育を推進されていますが、自己肯定感や協調性を育てることを通して、「自分に関する力」と「人と関わる力」を培う非認知能力を伸ばしていこうとする姿勢が伺えます。
- ・ 多くの行事の中での様々な体験を通して、心豊かな子どもを育むことができているが、「当たり前のことが当たり前のようにできる子ども」を育てる意識や「全教職員で全園児を育てる」という意識が教職員に浸透されていることも素晴らしく、継続していくことが望まれる。
- ・ 園児に対する教職員の対応や言葉かけが素晴らしく、子どもたちひとり一人が生き生きと輝いている。今の姿を守るためにも教員の処遇改善が望まれる。また、教員確保に苦勞する現状があり、子ども園への移行の検討が求められる。
- ・ 過去の伝統を生かしながら、三人行事の精選に取り組み成果を上げているが、発表会の音楽部門を切り離すという方向は賛成できる。
- ・ 現状に留まることなく、常に改善に向けて取り組み、質の高い保育を展開していくことが望まれる。